



岡山県内経済情勢報告


令和6年8月6日

財務省中国財務局
岡山財務事務所

本調査にかかるお問い合わせ先
財務省中国財務局岡山財務事務所
財務課長 向井
TEL (086) 223-1131 内線 411

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」




項目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	






（注）6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	

設備投資	5年度は前年度を下回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	
企業収益	5年度は減益見込み	6年度は増益見込み	
企業の景況感	「下降」超に転じている	「下降」超幅が拡大している	
住宅建設	前年を下回っている	前年を上回っている	
輸出	前年を下回っている	前年を上回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

百貨店販売は、衣料品などが低調なことから前年を下回っている。スーパー販売は、消費者の節約志向が高まる中、日用品などが低調なことから前年を下回っている。コンビニエンスストア販売は、節約志向の高まりにより弁当などの高単価商品が買い控えられていることから前年を下回っている。家電大型専門店販売は、冷蔵庫などが低調なことから前年を下回っている。ドラッグストア販売は、新規出店効果のほか外出機会の増加により化粧品などが好調なことから前年を上回っている。ホームセンター販売は、商品単価の上昇に加え、気温上昇により冷房用品などが好調なことから、前年を上回っている。乗用車販売は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車いずれも前年を下回っている。

このように、個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 催事効果により来店客数が増加したものの、安定しない気温の影響を受け衣料品などが低調だった。(百貨店)
- 花見など大人数で集まるイベント時に寿司などのごちそうメニューが好調なものの、イベント後は生活防衛意識の高まりから買い控えの様子が見られる。(スーパー)
- 物価高による節約志向の高まりからお手頃感のあるパンやおにぎりが好調であるものの、弁当などの高単価商品が買い控えられている。(コンビニエンスストア)
- 新規出店効果もあり来店客数が増加しているほか、気温が高かったことにより冷却商品や殺虫剤、外出機会の増加から化粧品の好調な状況が続いている。(ドラッグストア)
- 商品値上げにより客単価が上昇。カメムシ大量発生により殺虫剤や、気温上昇により冷房用品などが好調だった。(ホームセンター)
- イベントなどの商店街活性化の活動により人流は増加し、コロナ前を上回っている。今後も、イベントの開催方法の工夫を継続することにより、売上増加に期待している。(商店街)
- 高価格帯商品の買い控えなど節約志向がみられるものの、商品値上げの影響や来店客数の増加により、売上は増加し、コロナ禍前の水準を上回っている。(専門店)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

輸送用機械は、自動車で半導体の供給制約が和らいでいることに加え、造船で新規受注の獲得もあり横ばいとなっている。化学は、産業機械などの高機能製品向けの需要が好調なものの、国内外の需要に弱い動きがみられるため横ばいとなっている。汎用・生産用・業務用機械は、国内外の需要が堅調なことから増加している。電気機械は、海外経済の回復ペースが緩やかになる中、需要は底堅いことから横ばいとなっている。鉄鋼は、輸送用機械を中心に引き続き需要が堅調であることから横ばいとなっている。

このように、生産活動は、足踏みの状況にある。

- 需要が堅調な中、半導体の供給制約の影響は和らいでいる。(自動車)
- 需要が好調で高操業が続いており、今後もコンスタントに新規受注を見込んでいる。(造船)
- 産業機械などの高機能製品向けの需要が好調なものの、国内外の需要に弱い動きがみられる。(化学)
- 堅調な受注を背景に一定数の受注残を抱えており、フル生産が続いている。(汎用・生産用・業務用機械)
- 海外経済の回復ペースが緩やかになる中、スマートフォン向けを中心に需要は底堅いものがある。(電気機械)
- 中国での鋼材需要の低迷などによる影響を受け、海外向けが減少傾向にあるものの、国内向けでは、輸送用機械向けの需要が堅調に推移している。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

新規求人数が前年を下回っているものの、有効求人倍率は概ね横ばいで推移している。また、企業の人手不足感は、法人企業景気予測調査（6年4-6月期）の従業員数判断BSIでみると、「不足気味」超幅が高水準となっている。このように、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 運輸、郵便で運転手の残業規制への対応等で求人が増加している一方で、物価上昇による企業収益の圧迫や好調であった昨年の反動を主因として、多くの業種で求人伸びに弱さが見られることから、有効求人倍率は概ね横ばいで推移している。（職業紹介）
- ドライバーが恒常的に不足する中、退職者も多く、人手が不足している。（運輸、郵便）

■ 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」 （全産業） 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 製造業では、前年度投資の反動により情報通信機械などで減少となるものの、生産能力の増強投資により自動車、化学などで増加見込みとなっていることから、前年度を上回る見込みとなっている。
- 非製造業では、前年度の大型投資の反動により運輸、郵便などで減少となるものの、店舗改装や店舗新設により小売、金融、保険などで増加見込みとなっていることから、前年度を上回る見込みとなっている。

- 顧客の多様化するニーズに応じた、新製品の開発や品質向上のための設備投資を予定している。（化学）
- 既存設備の更新及び生産能力増強の設備投資を予定している。（食料品）
- 生産能力・開発体制増強のため、設備投資を予定している。（繊維工業）
- システムの更新及び新紙幣に対応するため、設備投資を計画している。（小売）
- 前年度に物流拠点の新設の大型投資を行ったが、今年度は維持更新が主な内容となっている。（運輸、郵便）

■ 企業収益 「6年度は増益見込み」 （全産業） 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 製造業では、光熱費などの上昇により自動車などで減益見込みとなるものの、価格転嫁の進展により化学や海外からの好調な需要により生産用機械などで増益見込みとなっている。
- 非製造業では、人件費などの上昇により卸売などで減益見込みとなるものの、運賃の引き上げにより運輸、郵便や新規委託の獲得により情報通信などで増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『下降』超幅が拡大している」 （全産業） 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期

- 企業の景況判断BSIは、「下降」超幅が拡大している。なお、翌期は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

- 新設住宅着工戸数でみると、貸家や持家などが増加していることから前年を上回っている。

■ 輸出 「前年を上回っている」

- 輸出は、品目別では鉄鋼などが減少しているものの、化学や非鉄金属などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、北米などが減少しているものの、中南米や大洋州などで増加している。

岡山県内経済情勢報告

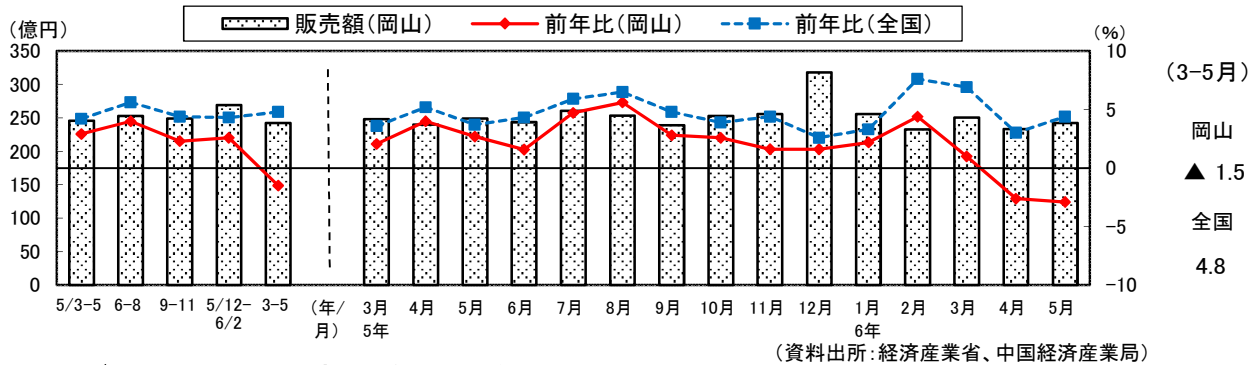
資料編

	目次	ページ
1.	個人消費.....	1
2.	生産活動.....	3
3.	雇用情勢.....	4
4.	設備投資.....	5
5.	企業収益.....	5
6.	企業の景況感.....	5
7.	住宅建設.....	6
8.	輸出.....	6

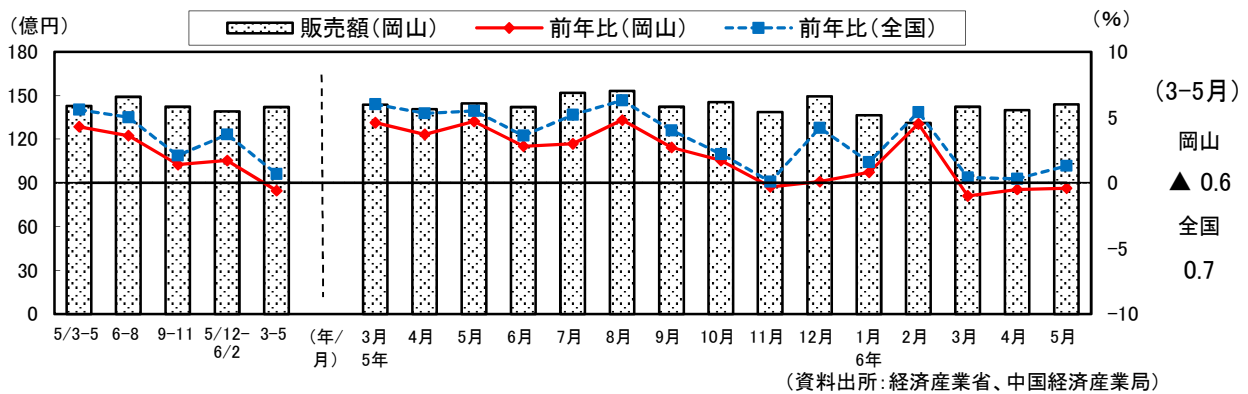
※グラフの外枠（右側）に記載している計数は、各項目の状況を分析する上で参考とした前年比、指数、倍率。

1.個人消費 一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある

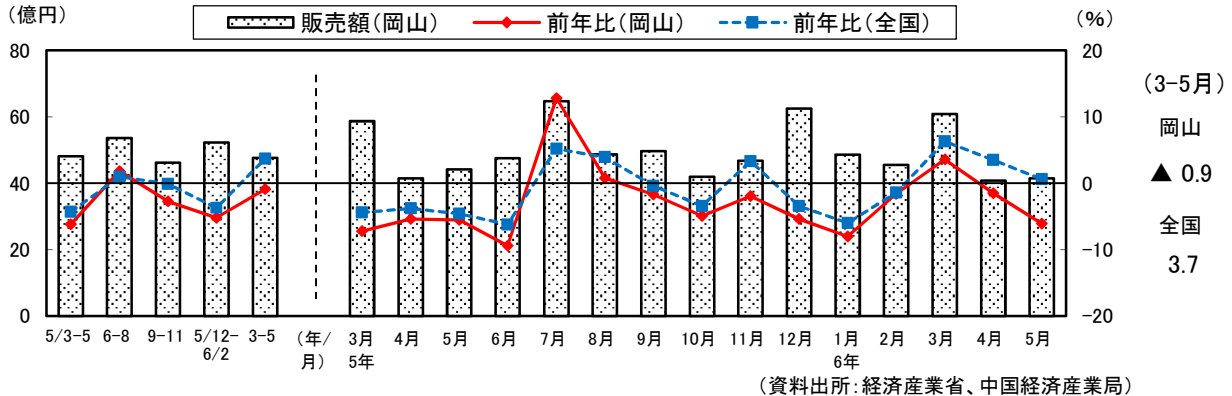
(1)百貨店・スーパー販売額(全店舗:前年比) (注)(1)~(5)の各グラフの3か月毎の販売額は、1月あたりの平均



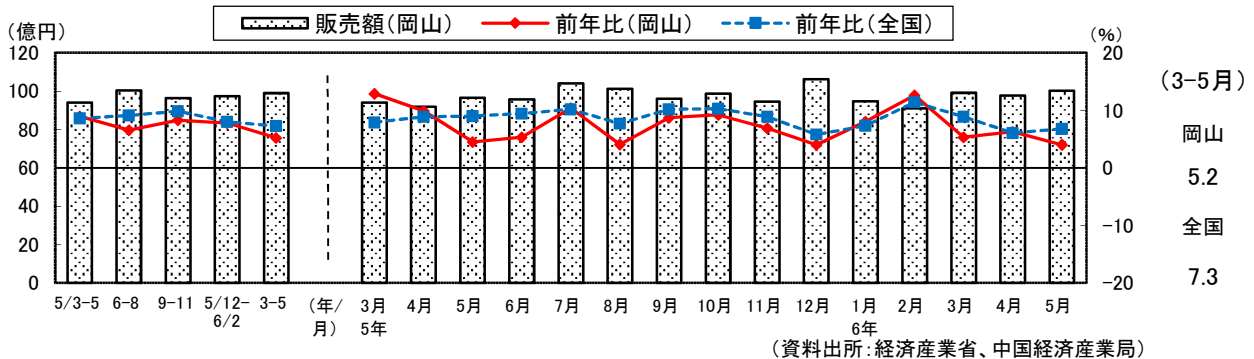
(2)コンビニエンスストア販売額(全店舗:前年比)



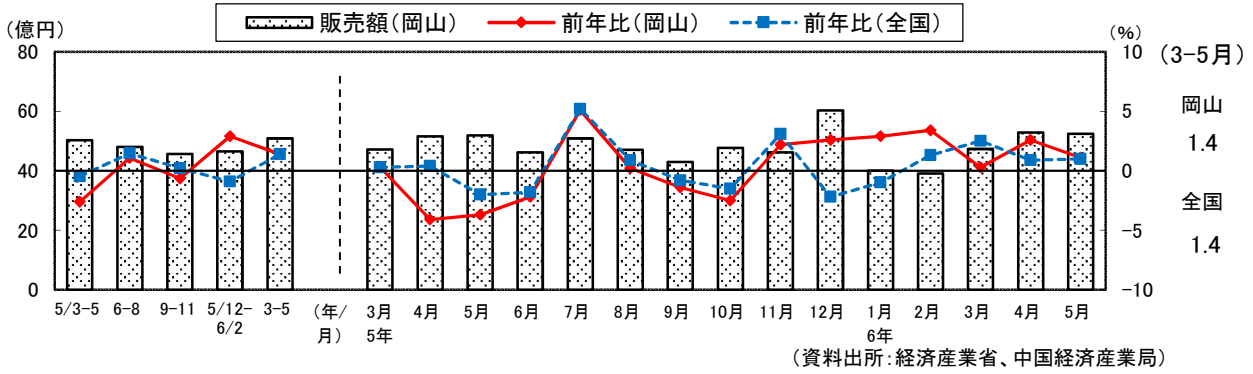
(3)家電大型専門店販売額(全店舗:前年比)



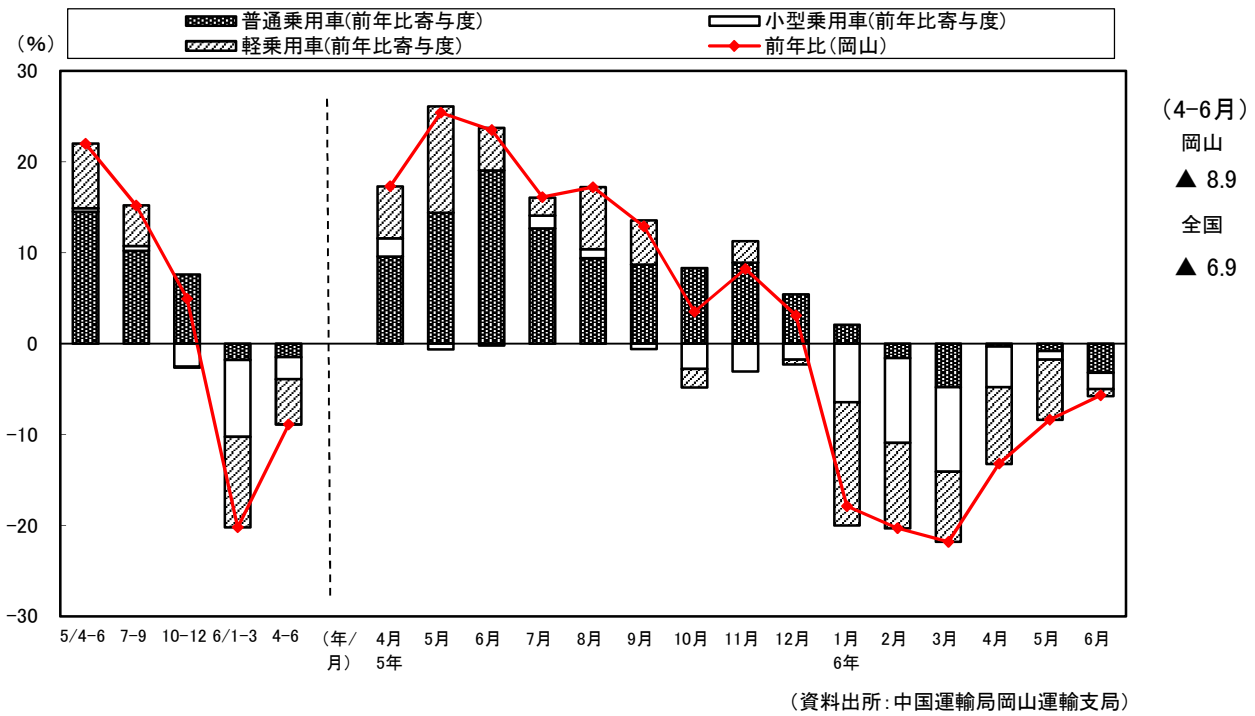
(4)ドラッグストア販売額(全店舗:前年比)



(5) ホームセンター販売額(全店舗:前年比)



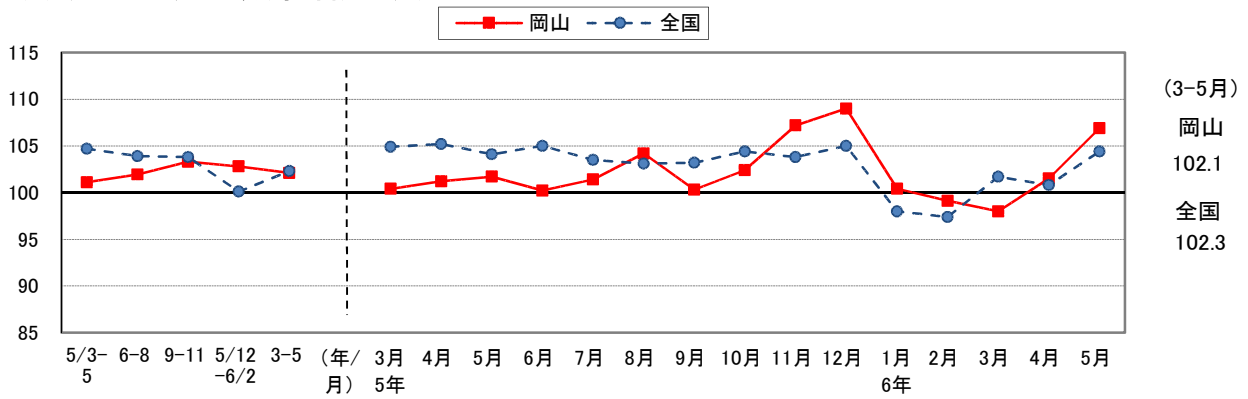
(6) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



2.生産活動 足踏みの状況にある

(1) 鉱工業生産指数(季節調整済)

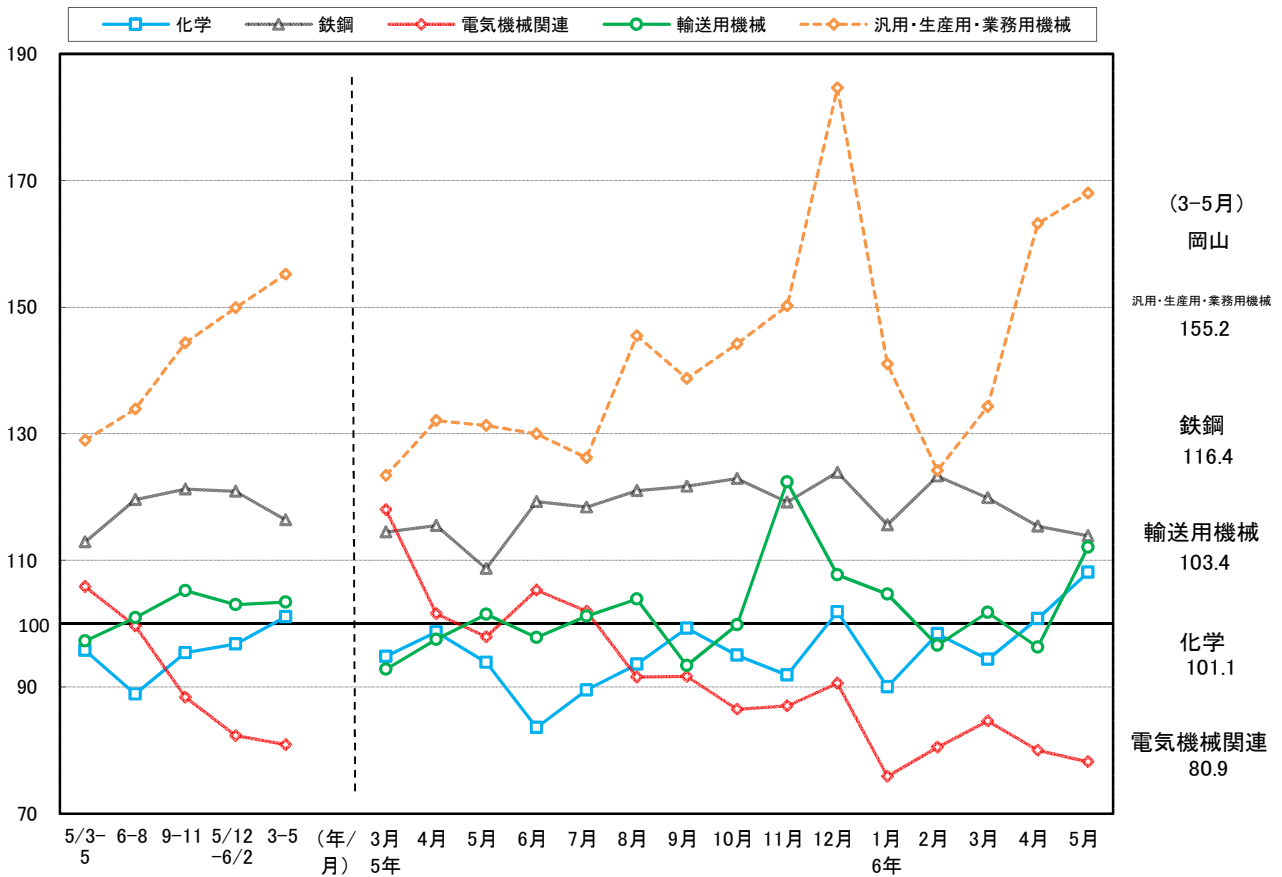
(指数)(令和2年=100)



(資料出所:経済産業省、岡山県)

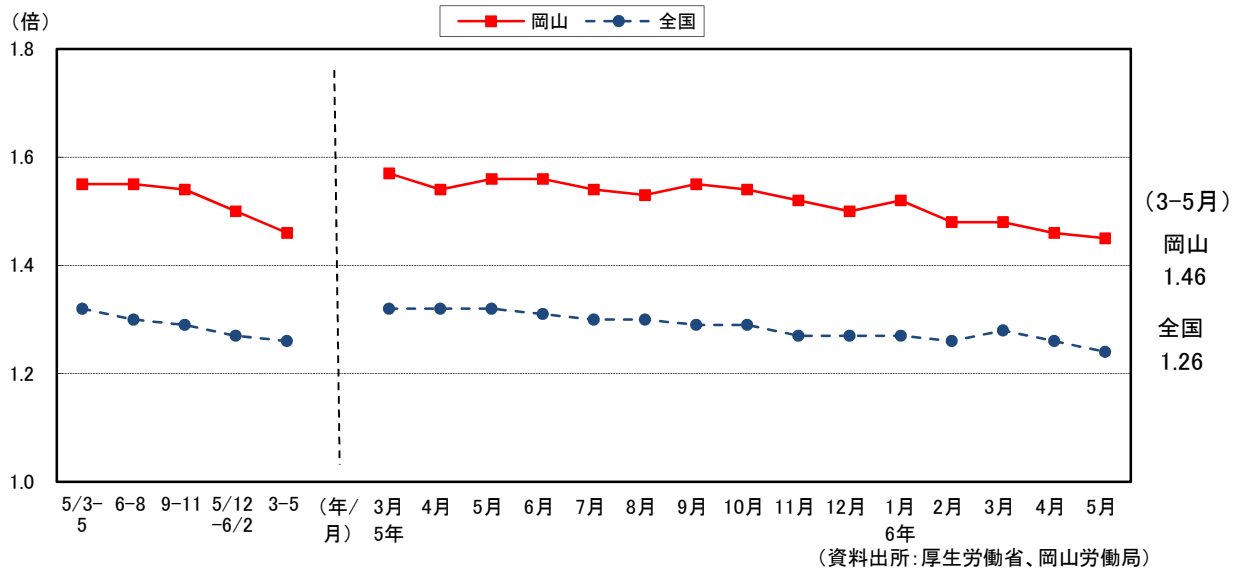
(2) 主要産業別生産指数(季節調整済)

(指数)(令和2年=100)

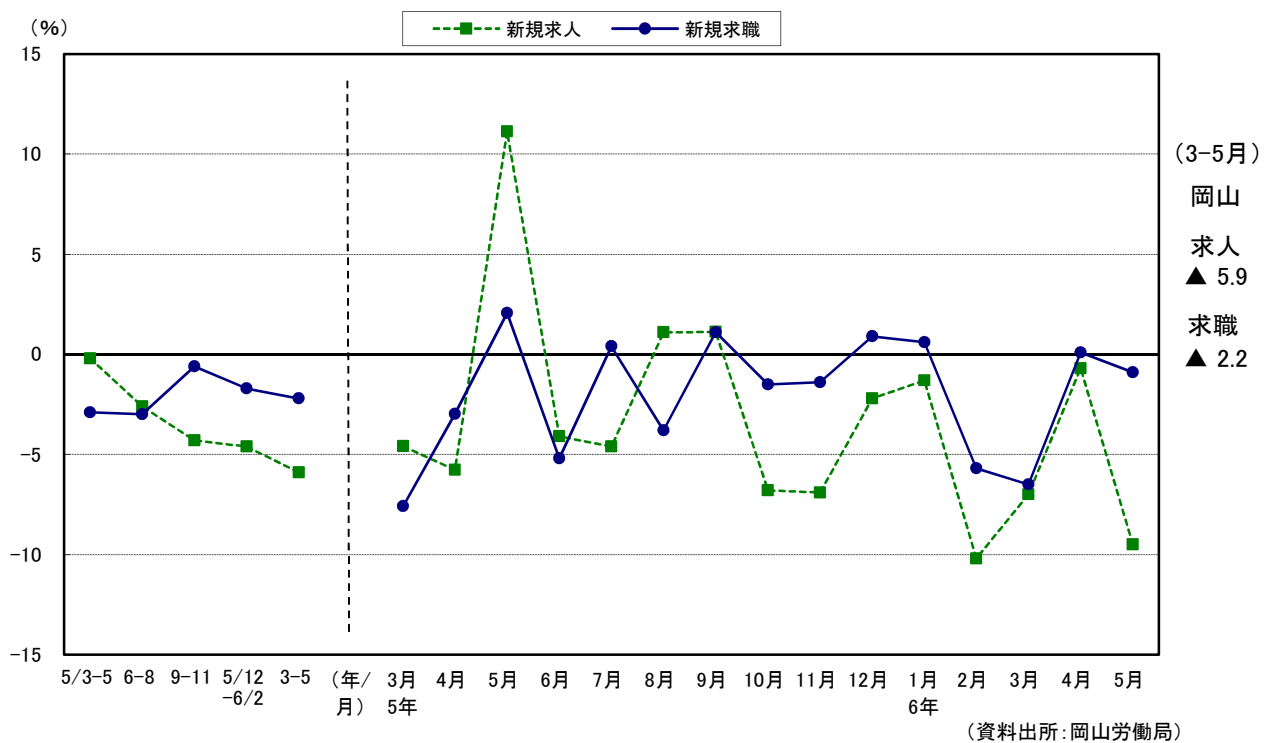


3.雇用情勢 緩やかに改善しつつある

(1)有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(2)新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



4.設備投資 (除く土地、含むソフトウェア投資) 6年度は前年度を上回る見込み

(前年度比増減率:%)

設備投資	全産業		製造業		非製造業	
	(前年度比増減率)	(前年度)	(前年度比増減率)	(前年度)	(前年度比増減率)	(前年度)
6年度	(14.9)	22.5	(11.4)	21.1	(32.8)	29.8

(注)当所法人企業景気予測調査(6年4~6月期)結果
()書きは前回(6年1~3月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

5.企業収益 (電気・ガス・水道業及び金融業・保険業を除く) 6年度は増益見込み

(前年度比増減率:%)

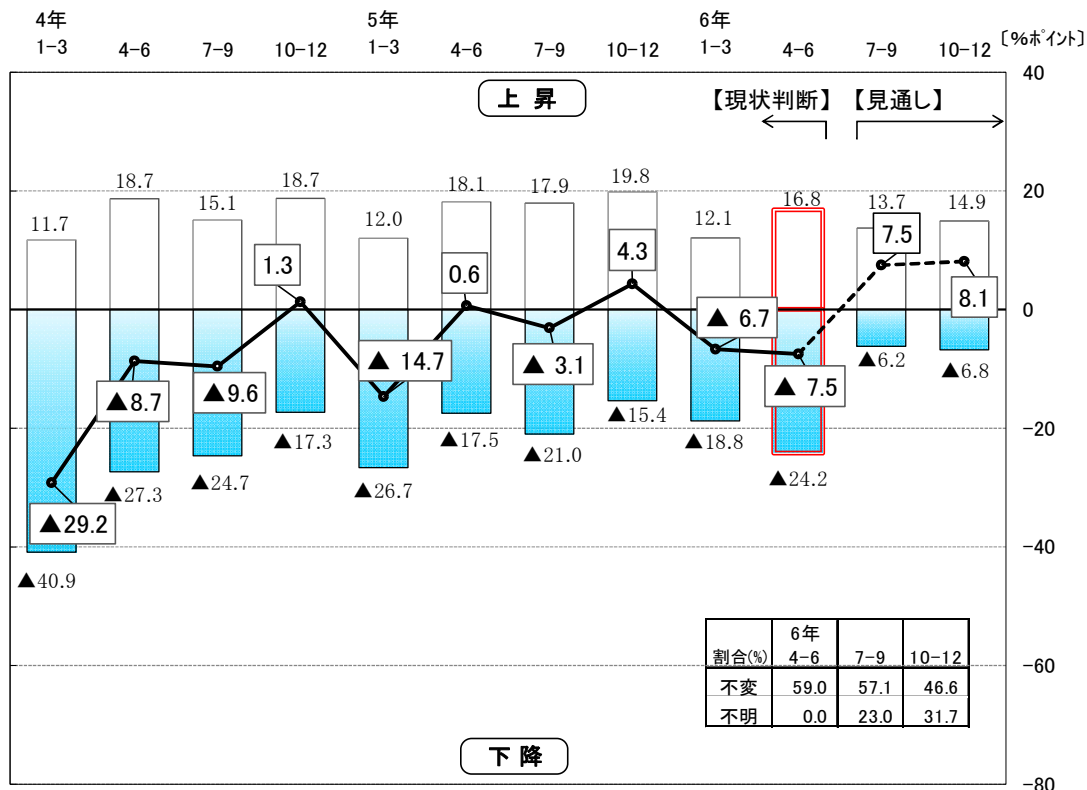
経常利益	全産業		製造業		非製造業	
	(前年度比増減率)	(前年度)	(前年度比増減率)	(前年度)	(前年度比増減率)	(前年度)
6年度	(19.6)	16.0	(29.8)	16.6	(▲6.3)	14.6

(注)当所法人企業景気予測調査(6年4~6月期)結果
()書きは前回(6年1~3月期)調査結果

(資料出所:岡山財務事務所)

6.企業の景況感 「下降」超幅が拡大している

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI:前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)

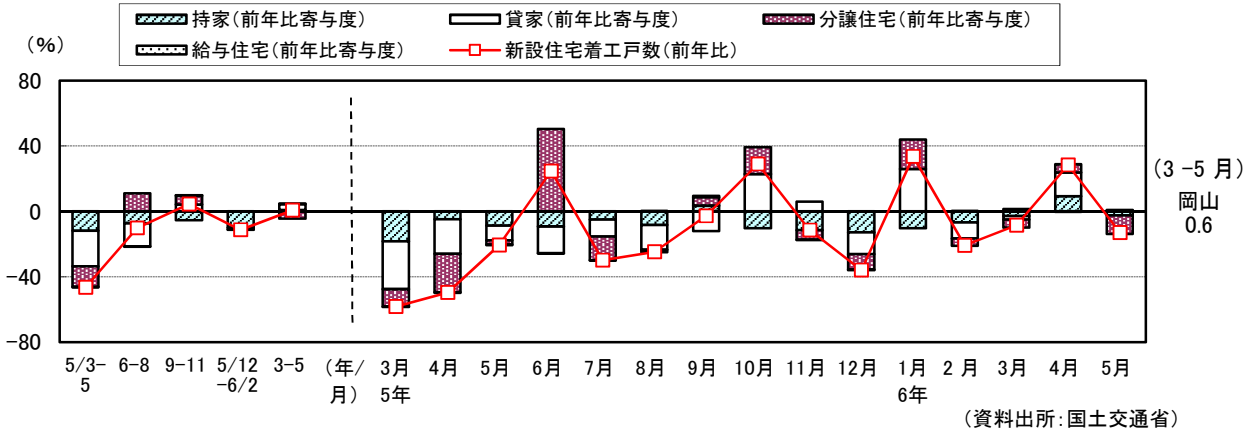


(注)当所法人企業景気予測調査(6年4~6月期)結果

(資料出所:岡山財務事務所)

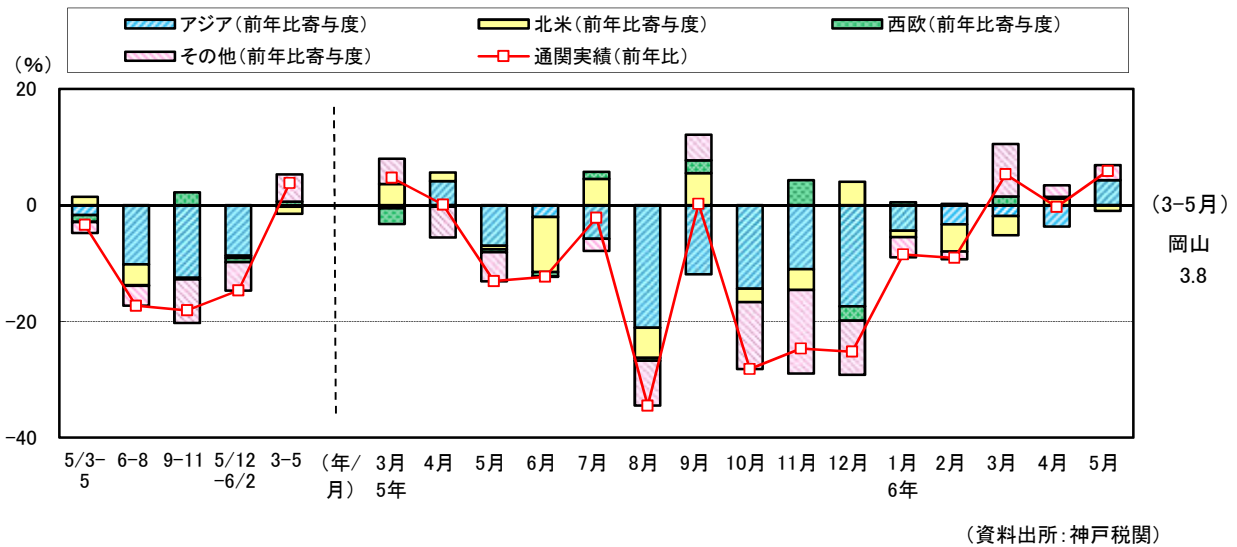
7.住宅建設 前年を上回っている

新設住宅着工戸数(前年比及び利用形態別寄与度)



8.輸出 前年を上回っている

輸出(円ベース)



<参考>

輸入(円ベース)

